

機関番号：16301

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20401052

研究課題名（和文）中国の民間金融機関と融資システムに関する海外調査研究

研究課題名（英文）Overseas research and study on Chinese private financial authorities and financing system

研究代表者

陳捷 (CHEN JIE)

愛媛大学・国際連携推進機構・教授

研究者番号：00380212

研究成果の概要（和文）：本研究は調査研究を通して、中国経済社会における民間金融機関存在の必要性を解明した。また、金融機関不健全な中国の資本市場には、民間貸付現象が普遍的に存在していることも明らかにした。当時に、民間貸付は今日、中国経済社会の特殊なものではなく、歴史的な継続ものである。本研究は、個人、家族、社会三者関係を経済の視点から研究して、家族クッション論を提出した。

研究成果の概要（英文）：The survey illustrates the necessity of the existing private financial authorities in Chinese economic society; what's more, the folk loan is commonly prevailing in Chinese capital market because the financial authorities are not so well organized. Folk loan, especially in nowadays, is not a special phenomenon in Chinese economic society but, it is the continuation of the history. The survey is studied from a view of the relationship among private person, family and society, and theory of family soft landing theory is put forward.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	2,400,000	720,000	3,120,000
2009年度	2,900,000	870,000	3,770,000
2010年度	2,200,000	660,000	2,860,000
年度			
年度			
総計	7,500,000	2,250,000	9,750,000

研究分野：経済学・金融学

科研費の分科・細目：経済学・財政学・金融論

キーワード：中国金融学、経済文化学、中国民間金融機関、民間信用融資、金融システム

1. 研究開始当初の背景

今日、中国の経済発展は世界の学者に注目されていることが事実なことである。勿論、中国の金融システム、為替の変動も注目している。しかし、中国の民間金融、特に中国人の固有な経済文化視点から、中国金融、経済と繋がって研究しているのは非常に少ない。

- (1) 中国の金融市場が二つあるのは現状である。一つは、公的な金融市場である。もう一つは民間金融市場である。前者は合理的、合法的な金融市場である。後者は、非合理であるが、合情的な、中国の経済社会に合えるものである。本研究は後者を研究対

- 象として研究する。
- (2) 民間融資の仕組みに調査して、存在の原因を分析する。特に、中国の中小企業・民営企業の発展に伴って、民間融資の役割が非常に大きい。
 - (3) 中国の伝統的な経済文化は今日には、中国人の経済行動、思惟方式に対してどんな影響があるか。そして、この伝統的な文化はどのように、中国人の行動様式をコントロールするか。
 - (4) 市場経済システムに移行してから、中国の企業形態も唯一な国有企業形態から、国有、民営、私有、個人企業の多様所有形態に転化している。企業サービスとする金融業は、以上の企業に対して、融資不公平により、民営企業、私営企業、個人企業の発展が制約されている。従って、民間金融機構は、中国の経済市場で半合法、半透明状態の下で運営している。

2. 研究の目的

中国の経済発展に伴って、金融の諸問題は、中国の経済市場の著しく顕著している。特に中国の民営企業、私営企業、個人融資に対して、健全な融資システムがなかったため、中国の金融市場には、半合法的な民間金融機関が法律外で遊離して、運営している。このような金融機構は、合法と言えないですが、中国の経済文化に合え、合情的なものである。従って、本研究の以下諸方面を研究の目とする。

- (1) 中国における金融機構の融資システムについて、調査、研究して、そして、国有金融機構と民営金融機構及び民間貸付の三者関係を究明したい。
- (2) 国有金融機構、民営金融機構、民間貸付三者の互いに補角関係を明らかにして、中国の経済発展を支える要因を究明したい。
- (3) 中国の伝統的な社会経済文化の存続を究明して、中国の経済発展の要因との繋がりを見つけたい。

3. 研究の方法

本研究は現地調査を主な研究方法として、そして、少量的なアンケート調査を加えて実施したのである。

- (1) 地域の経済格差により、各地の経済事情、金融事情の不同により、高度経済成長地域、中成長地域、低成長地域を分けて、調査を行った。
- (2) 地域の文化差異の存在により、できる限り同じ文化を所有する地域に対して比較的の研究する。
- (3) 現地で聞き取り調査を行いして、背

整理して、研究グループ全員の共同研究資料として、不同の視点から分析した。

- (4) 定期的に研究集会を開、研究結果、研究情報を交換する
- (5) 国際的な学術フォーラムを開催して、本研究の内容を国内、海外に発信し、公表する。

4. 研究成果

本研究は海外調査研究を通して、以下のよう

に究明した。国有金融機構、民営金融機構、民間金融機構は中国の経済市場には、各自の役割を明白した。

- (1) 所謂国有金融機構は国有銀行と言える。このような金融機構は中国の国有企業、大手ゼネコンを主な融資対象として、運営している。国有金融機構ですから、信頼度も高いので集金力も強い。全国庶民の80%以上の預金は国有金融機構に集中している。民間の融資は、国有金融機構が住宅ローンに集中している。これは、リスクが低いので、国家金融政策の範囲なのである。国有金融機構は、中国の金融業、経済発展を支えていると言えるが、政府の政策に制約されて、柔軟性がない。普通の庶民にとって、預金と住宅ローン意外には、基本的に縁がない。特に中小企業、自営業者は正式のロードを通して、国有金融機関からローンすることがありえないことである。この原因は幾つがある。一つは、中小企業、私営業、個人の信用問題である。二つは、融資金額が少ないことである。なぜ、住宅ローンができるか、これは住宅自身が抵当品になることである。
- (2) 民営金融機構は中国民営銀行、例えば光大銀行、民生銀行のような銀行、また、当舗（質屋）業、リース会社、金融会社等を指している。この中には、銀行以外の金融機構は、預金できないが、金融融資の保証できる。こうして、民間金融機構の役割は、一つが直接に民営企業、私営企業に融資すること、もう一つが国有金融機関と民営企業の間で担保役を發揮していることを明らかにした。当舗（質屋）業は、昔のような貧困者が利用する金融業から、金持ちが利用する金融業に転換して、生産資料を持っている中小企業主、民営企業に短期融資を行っている。こうして、民営金融機構は、中国の金融市場の空白に補充する役割であることを明

らかにした。
 (3) 中国の伝統的な経済文化は中国の経済発展に対する作用について独自のモデルを研究した。中国の経済文化の中心部分は血縁関係中心の家族（この家族意味は日本語の家族意味ではなく、拡大的な父系を中心している宗族の意味である。）である。

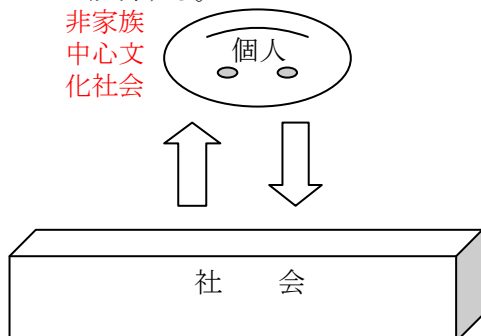
まず、中国の伝統的な文化は中国の経済発展に影響する諸要因について究明する。これは、血縁関係の「家族中心の経済文化」、非血縁関係の「地縁の経済文化」、非合理的な「同郷・同窓経済文化」、そして合理的な国家システムの経済文化の四つ側面の利害関係を分析する。続く、中国の曖昧な経済文化は中国人の経済活動に対する影響によって、今日のような経済活動、生活習慣を形成し、そして中国人が中国社会に生き続けていることを明らかとなる。

そして、中国宗族内の経済活動一体化について究明する。中国の経済・金融に関する研究は血縁関係の家族から離れると何にもできないことは過言ではない。これは、中国における家族の意味が我々の想像以上に巨大な宗族であり、見えない処で、現実に存在している経済利益団体である。現代的な中国社会では、「家庭」というものは他の社会と同じであり、独立な核家族である。しかし、その裏には、巨大家族利益団体が存在している。ですから、互いに生活に助け合い、各家を支えている。

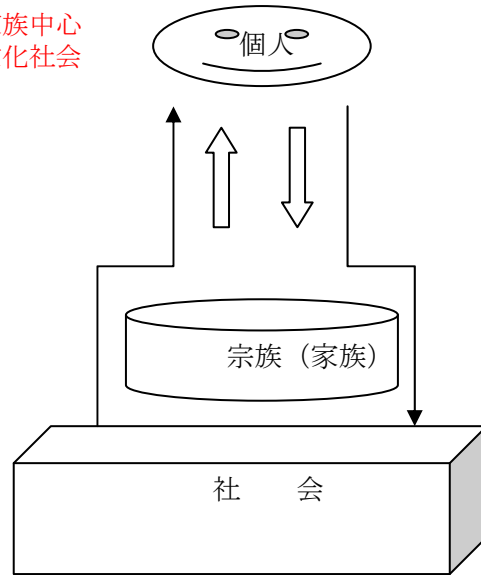
曖昧な非合理的な家族経済文化は不足的な中国经济システム・金融システムに補完の役割を發揮していることである。これは、個人、家庭、社会三者の関係から個人と家庭との関係、個人と社会の関係を分析したものである。

以上の研究を通して、本研究は「家族文化クッション理論」を提出している。それは以下の図面のように説明する。

非家族
 中心文
 化社会



家族中心
 文化社会



非家族中心文化の社会では、個人と社会の関係は直接、互恵的な関係である。個人は、直接的に社会に納税して、そして社会から社会福祉を受ける。個人と社会の関係は比較的に直接、明確している。同時、社会は社会の各成員に対して、責任を負う。このような社会に生活している人たちは、老後生活、福祉或いは生活苦み困るときに、「家族」に志向ではなく、社会に志向している。しかし、中国では、家族文化の影響によって、各家族成員は、自分が所属している全家族の責任を追う。家族の繁栄は個人の繁栄、家族の没落は個人の没落である。個人の運命は、完全に家族と繋がっている。家父長は、嘗ての宗族長の役割もある。家法での実行は難しいが、家族内部の財産を再分配することができる。従って、中国人は、家族への期待感が社会に対する期待感よりはるかに超えている。中国では、このような曖昧な家族文化は、個人と社会の間にクッションのような緩衝空間を作ってくれる。このような緩衝空間があるこそ、中国の社会問題がそんな表明化ならなかった。相対的に政府の圧力が緩和される。経済の視点から見ると、経済危機の時には、個人と政府間の矛盾或いは直接対立は一層、激しくなることは普通な現象である。しかし、中国では、勿論、このような現象があるが、家族文化の原因により、家族内で共同的に経済危機を克服する。これは、社会福祉不健全な中国にとって、非常に重要だと思う。

中国の家族経済文化の変化、家族構造の変化により、個人の家族志向は、直系血縁から傍系血縁関係に拡大し、

家族経済文化志向から地域経済文化、同郷経済文化、同窓経済文化の傾向へ転換していくことを明らかにしている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

- ① 陳捷 「曖昧的中国経済文化和経済発展的關係」(中国語)、21世紀東アジア社会学第3号、査読有、2010、pp148-154
- ② 殷徳 「論中国保険誠信体系建設」(中国語)、21世紀東アジア社会学第3号、査読有、2010、pp139-147
- ③ 宋雅楠 「信貸約束、民間金融与中小企業融資」(中国語)、21世紀東アジア社会学第3号、査読有、2010、pp76-90

[学会発表] (計 1 件)

- ① 陳捷、曖昧的中国経済文化和経済発展的關係、日中経済・社会国際学術フォーラム、2009、9、12

[図書] (計 2 件)

- ① 陳捷、他、明石書店、グローバル社会における信用と信頼のネットワーク、第五章中国における庶民金融の実態と変容、pp107-131, 2008
- ② 陳捷、明石書店、移動する人々と中国にみる多元的社会、第四章移動する商人—歴史からみるその移動空間、pp121-140

6. 研究組織

(1) 研究代表者

陳捷 (CHEN JIE)

愛媛大学・国際連携推進機構・教授

研究者番号：00380212